

ウクライナ戦争から考える ソーシャルネットワークと 民主主義

Lawrence Lessig

2022

6 / 24

Fri

15:40 ~
18:00

開場 15:10

場所 オンサイト：慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール
オンライン：Zoom ウェビナー

言語 日本語・英語（同時通訳あり）

申込

会場参加

<https://kgri2040-platformpj0624os.peatix.com/>

オンライン参加

<https://kgri2040-platformpj0624ol.peatix.com/>

締切 2022年6月20日(月)



*イベントに関する詳細・最新情報は、KGRIウェブサイトのイベント案内ページをご確認ください。

ウクライナ戦争では、権力者がSNSを駆使して人々の心理にはたらきかけ、民主国家の主権を侵害していく一方、SNSが人々の抵抗の手段になっていることを目の当たりにした。SNSは民主主義を守る武器なのか、それとも民主主義を破壊する爆薬なのか。ネットワーク空間における衝突の後、民主主義はもたらされるのか。SNSが民主主義の脅威となることを危惧してきたローレンス・レッシグ教授とともにウクライナ戦争後のネットワーク空間と民主主義のゆくえを議論する。

Keynote Speaker

ローレンス・レッシグ(ハーバード大学ロースクール法学教授)

Commentators

成田 悠輔(イエール大学助教授)

廣瀬 陽子(慶應義塾大学総合政策学部教授)

山本 龍彦(慶應義塾大学大学院法務研究科教授/KGRI 副所長)

Moderator

國領 二郎(慶應義塾大学総合政策学部教授/CCRC 運営責任者)

■ プログラム

開会挨拶 天谷 雅行(慶應義塾常任理事)

趣旨説明 山本 龍彦

基調講演 ローレンス・レッシグ

パネルディスカッション

コメント: 成田 悠輔・廣瀬 陽子・山本 龍彦

モデレータ: 國領 二郎

閉会挨拶 デビッド・ファーバー(CCRC 共同センター長/教授)

※総合司会 河嶋 春菜(KGRI 特任准教授)

ローレンス・レッシグ教授とのこれまでの議論はKGRIウェブサイトにてご覧ください

<https://www.kgri.keio.ac.jp/news-event/123945.html>



やむを得ない事情で延期や開催方法の変更を行う場合があります。その場合には、ご登録のメールアドレスにご連絡いたします。会場でご参加の際には感染症対策へのご協力をお願いいたします。

本イベントに関する
お問い合わせ

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート「2040独立自尊プロジェクト」事務局
e-mail: kgri_2040pj[at]info.keio.ac.jp 発信の際は[at]を@に置き換えてください。



Keio University